

令和7年度 自己評価 集計・分析レポート【統合版】

浜田ハピネス認定こども園

作成日：2026年8月18日

本レポートに収録している自己評価

自己評価①（全職員用）

自己評価②（フリー保育教諭用）

自己評価②（専門職員用）

自己評価②・③（保育士用）

自己評価②・③（園運営を担う職員用）

はじめに

本園では、園全体を対象とした自己評価（自己評価①）に加え、フリー保育教諭・専門職員・保育士・園運営を担う職員など、それぞれの役割や経験段階に応じた自己評価（自己評価②・③）を行い、日々の実践を振り返っています。

これまで個別にご紹介してきた5つの自己評価レポートを、このたび1つの資料にまとめました。回答者が一定数以上のグループについては集計結果をグラフや点数で、少人数のグループについては、個人が特定されることのないよう、振り返りの視点と取り組みの姿勢を文章でご紹介する形としています。

目次

自己評価① 全職員	2
自己評価② フリー保育教諭	7
自己評価② 専門職員	11
自己評価②・③ 保育士	14
自己評価②・③ 園運営を担う職員	22

自己評価① 全職員

調査概要

本レポートは、Google フォームで実施した「令和7年度 自己評価①（全職員用）」の回答データを集計・分析したものです。全20問について、園の理念理解から安全管理、保護者対応、自己管理まで、保育士としての実践を5段階（1. 全くできていない～5. 十分できている）で自己評価する形式となっています。一部の設問には「業務上、日誌を記入することがない」「ICTや教材を使う業務には携わっていない」など、担当業務によって対象外となる選択肢が用意されており、該当する回答は平均スコアの算出から除外し、設問ごとに件数を別途記載しています。

31名分のデータとして集計しました。

回答職員数	設問数	全設問 平均スコア
31 名	20 問	3.93
（重複送信1件を集約後の実人数）	5段階評価（園独自の自己評価シート）	／ 5.00 点満点

設問別 平均スコア

20設問それぞれの平均スコアを比較すると、「第4問 子どもの安全を最優先にしているか」（4.32）、「第3問 子どもの人権とプライバシーの尊重」（4.29）など、子どもの安全・人権に直結する項目で高い評価が見られます。一方、「第12問 会議や研修で得た知識を実践に活かしているか」（3.45）は20設問中もっとも低く、全体平均（3.93）を明確に下回りました。

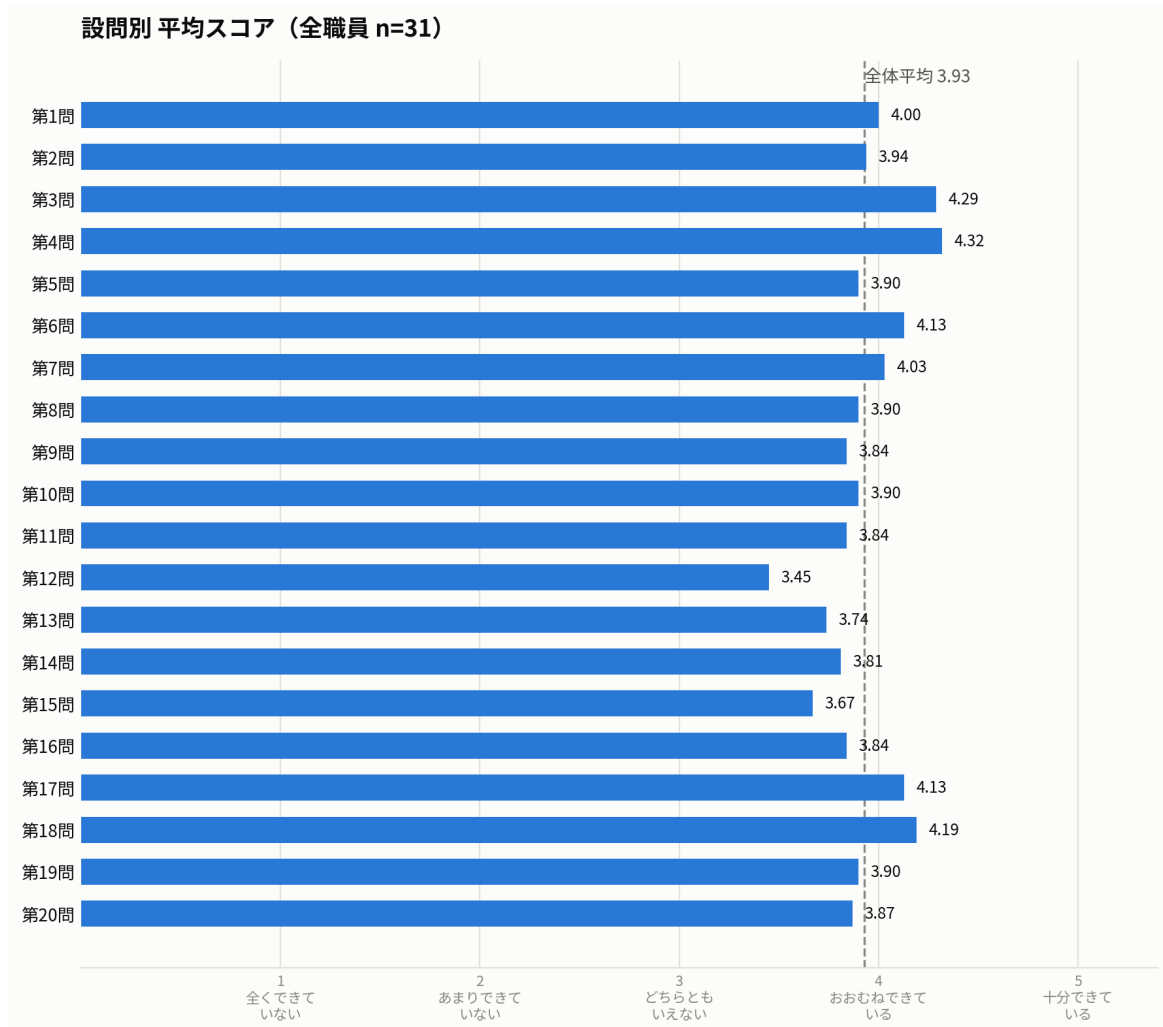


図1：設問別 平均スコア（全職員 n=31、5段階評価）

設問別 回答分布

平均スコアだけでは見えない「回答のばらつき」を可視化するため、各設問について5段階の回答比率を分布図にまとめました。中央の「3. どちらともいえない」は左右へ均等に振り分け、ゼロ線を挟んで否定的な回答（1・2）と肯定的な回答（4・5）の広がり进行比较できるようにしています。

「第12問（会議・研修の実践活用）」は「3. どちらともいえない」が42%と全設問中もっとも高く、判断に迷った職員が多かったことがうかがえます。子どもの安全・人権・衛生管理に関する設問（第3・4・18問など）は「4. おおむねできている」「5. 十分できている」の合計が90%を超え、高い自己評価に回答が集まっています。

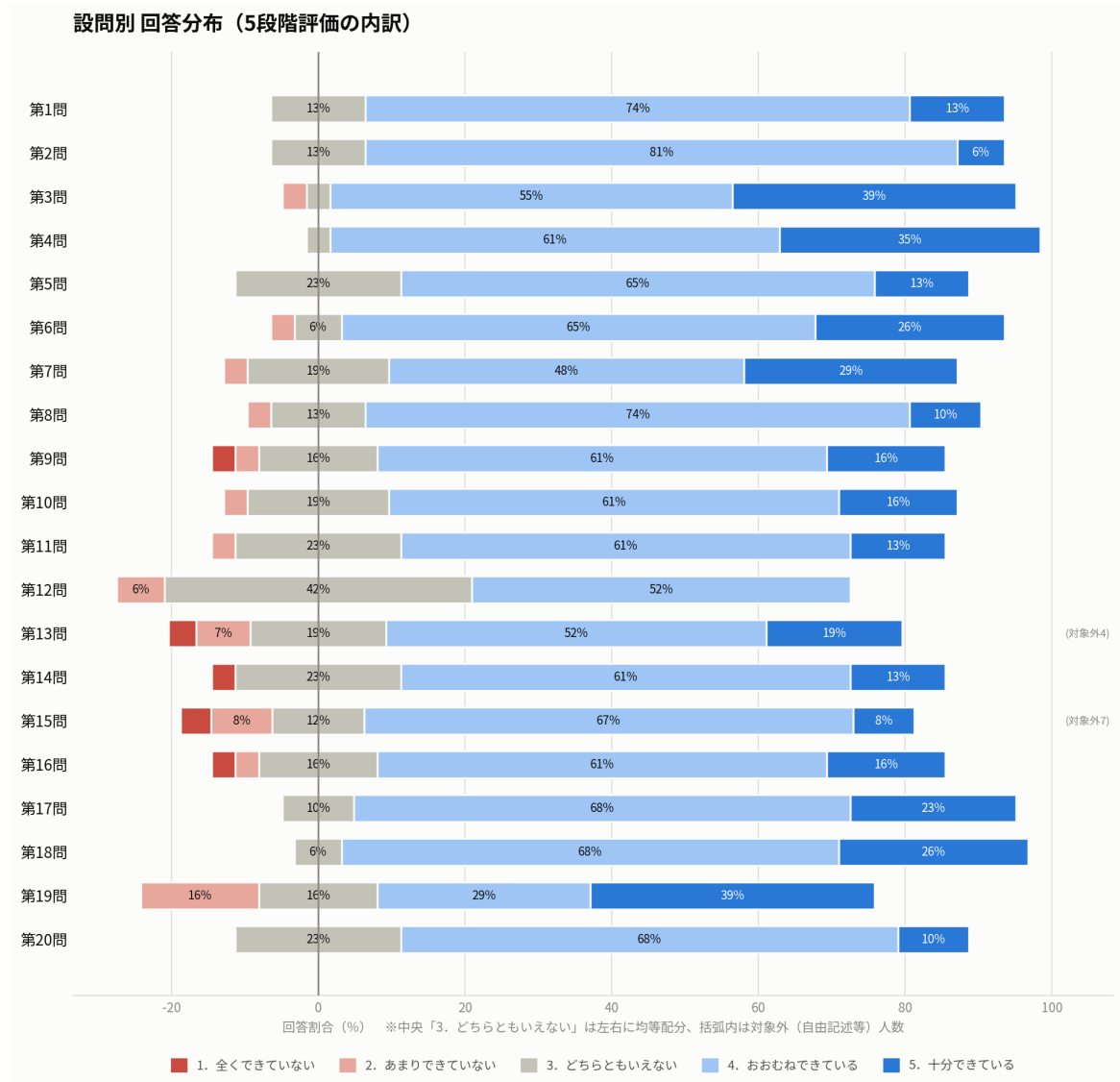


図2：設問別 回答分布（%、n=31。括弧内は対象外回答者数）

分析所見

評価の高い項目（上位 5 設問）

設問	内容	平均スコア
第 4 問	子どもの安全（事故防止・体調管理・避難訓練）を最優先にしているか。	4.32
第 3 問	子どもの人権とプライバシーを尊重しているか。	4.29
第 18 問	衛生管理（手洗い・消毒・環境整備）を徹底しているか。	4.19
第 6 問	子ども一人ひとりの個性を受け入れ、肯定的に関わっているか。	4.13
第 17 問	行事や連携を必要とする業務に責任を持ち積極的に取り組んでいるか。	4.13

子どもの安全・人権・衛生管理など、保育の土台となる基本業務について高い自己評価が得られており、園全体としてこれらを最優先事項として認識・実践できていることがうかがえます。

評価の低い項目（下位 5 設問）

設問	内容	平均スコア
第 12 問	会議や研修で得た知識を実践に活かしているか。	3.45
第 15 問	ICT や教材を活用し、保育や事務の効率化を図っているか。	3.67
第 13 問	業務日誌や記録を正確・迅速に記入しているか。	3.74
第 14 問	法令・園内規定・マニュアルを理解し遵守しているか。	3.81
第 16 問	園内研修・外部研修に積極的に参加しているか。	3.84

会議・研修で得た知識の実践への還元、ICT・教材の活用、業務日誌の記入、法令・園内規定の理解、外部研修への参加といった「学び・記録・情報活用」に関わる項目が相対的に低めの評価となりました。担当業務により ICT や日誌記入に日常的に携わらない職員が一定数含まれる点（第 13 問・対象外 4 名、第 15 問・対象外 7 名）を踏まえつつ、研修内容を現場実践へつなげる仕組みづくりや、ICT 活用機会の拡大が今後の検討課題として考えられます。

本結果から見える今後の課題

設問ごとの回答の広がりや「3. どちらともいえない」「対象外」の割合まで踏まえて見直すと、平均点の順位だけでは見えにくい 3 つの課題が浮かび上がりました。

課題① 研修で得た学びを、日々の実践にどうつなげるか

根拠：第 12 問「会議や研修で得た知識を実践に活かしているか」は全 20 問中もっとも低い平均 3.45 点で、「3. どちらともいえない」の回答が 41.9%と全設問中最も高くなりました。研修で学んだ内容を現場でどう活かすか、判断に迷う職員が一定数いることがうかがえます。

対応の方向性：研修後に「今日の学びを保育にどう活かすか」を共有する振り返りの時間やミニミーティングを設け、研修と日々の実践をつなぐ仕組みづくりを進めます。

課題② ICT・教材の活用をさらに広げる

根拠：第 15 問「ICT や教材を活用し、保育や事務の効率化を図っているか」は平均 3.67 点で下から 2 番目でした。加えて回答者 31 名中 7 名が「ICT や教材を使う業務に携わっていない」ため対象外の回答をしており、担当業務によって活用の機会に差がある実態がうかがえます。

対応の方向性：全職員が使いやすい ICT ツール・教材の整備と操作研修を行い、担当業務にかかわらず活用の機会を広げていきます。

課題③ 業務日誌・記録の書き方を園内で揃える

根拠：第13問「業務日誌や記録を正確・迅速に記入しているか」は平均3.74点で、回答にも比較的広がりが見られました。対象外の回答（日誌記入の機会がない職員）も4名含まれており、担当業務によって記録の経験に差があることも背景にあると考えられます。

対応の方向性：記録項目・書式を園内で統一し、記入時間の確保やOJTを通じて、記録業務の標準化を図ります。

このほか、第14問「法令・園内規定・マニュアルの理解」も「3. どちらともいえない」が22.6%を占めており、規定の周知徹底や読み合わせの機会を増やす余地があります。

総括

全20設問の総合平均は3.93点（5点満点）で、多くの項目が「4. おおむねできている」を中心に分布しており、全体として安定した自己評価結果となりました。特に子どもの安全確保・人権尊重・衛生管理は高水準で徹底されている一方、上記の3つの課題に代表される「学びを次につなげる・ICT活用・記録の標準化」の領域には伸びしろが見られます。次年度に向けては、これらを重点テーマとした園内研修や、ICT・記録業務の標準化支援を計画的に進めてまいります。

附録：設問一覧と平均スコア

全20設問の内容と平均スコアの一覧です。図1・図2の「第○問」表記に対応しています。

設問	内容	平均スコア
第1問	園の理念を理解し、日常の業務に反映しているか。	4.00
第2問	保育所保育指針を理解し、子どもとの関わりに活かしているか。	3.94
第3問	子どもの人権とプライバシーを尊重しているか。	4.29
第4問	子どもの安全（事故防止・体調管理・避難訓練）を最優先にしているか。	4.32
第5問	子どもの発達段階に応じた援助をしているか。	3.90
第6問	子ども一人ひとりの個性を受け入れ、肯定的に関わっているか。	4.13
第7問	基本的生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱）の習得を支援しているか。	4.03
第8問	言葉遣いや態度、身だしなみを意識し、模範的な姿を子どもに示しているか。	3.90
第9問	保護者の思いや意見を傾聴し、信頼関係を築いているか。	3.84
第10問	保護者への連絡（連絡帳アプリ・口頭・電話）・対応・挨拶等含め、正確かつ丁寧に行っているか。	3.90
第11問	職員同士で協力・分担し、チームで保育を行っているか。	3.84
第12問	会議や研修で得た知識を実践に活かしているか。	3.45
第13問	業務日誌や記録を正確・迅速に記入しているか。	3.74
第14問	法令・園内規定・マニュアルを理解し遵守しているか。	3.81
第15問	ICTや教材を活用し、保育や事務の効率化を図っているか。	3.67
第16問	園内研修・外部研修に積極的に参加しているか。	3.84
第17問	行事や連携を必要とする業務に責任を持ち積極的に取り組んでいるか。	4.13
第18問	衛生管理（手洗い・消毒・環境整備）を徹底しているか。	4.19
第19問	自己の管理に努め、欠勤や遅刻を防いでいるか。	3.90
第20問	困難な状況でも冷静に対応し、前向きな姿勢を取っているか。	3.87

自己評価② フリー保育教諭

調査概要

本レポートは、Google フォームで実施した「令和7年度 自己評価②（フリー保育教諭用）」の回答データを集計・分析したものです。フリー保育教諭として、担任の補助や園全体を横断したサポート、子どもとの関わり、保護者対応、安全・衛生管理など、全10問について5段階（1. 全くできていない～5. 十分できている）で自己評価する形式となっています。

回答者はフリー保育教諭5名と少人数のため、数値は傾向を把握するための参考値としてご覧ください。

回答教諭数	設問数	全設問 平均スコア
5 名 (フリー保育教諭)	10 問 5段階評価（園独自の自己評価シート）	4.04 ／ 5.00 点満点

設問別 平均スコア

10 設問の平均スコアを比較すると、「第2問 園児に安心感を与える意識」「第3問 記録・保育補助」「第5問 担任との連携」「第8問 安全・衛生への配慮」がいずれも4.40点と高い評価でした。一方、「第10問 園全体を見渡した必要なサポート」（3.40）は10 設問中もっとも低く、全体平均（4.04）をやや下回りました。

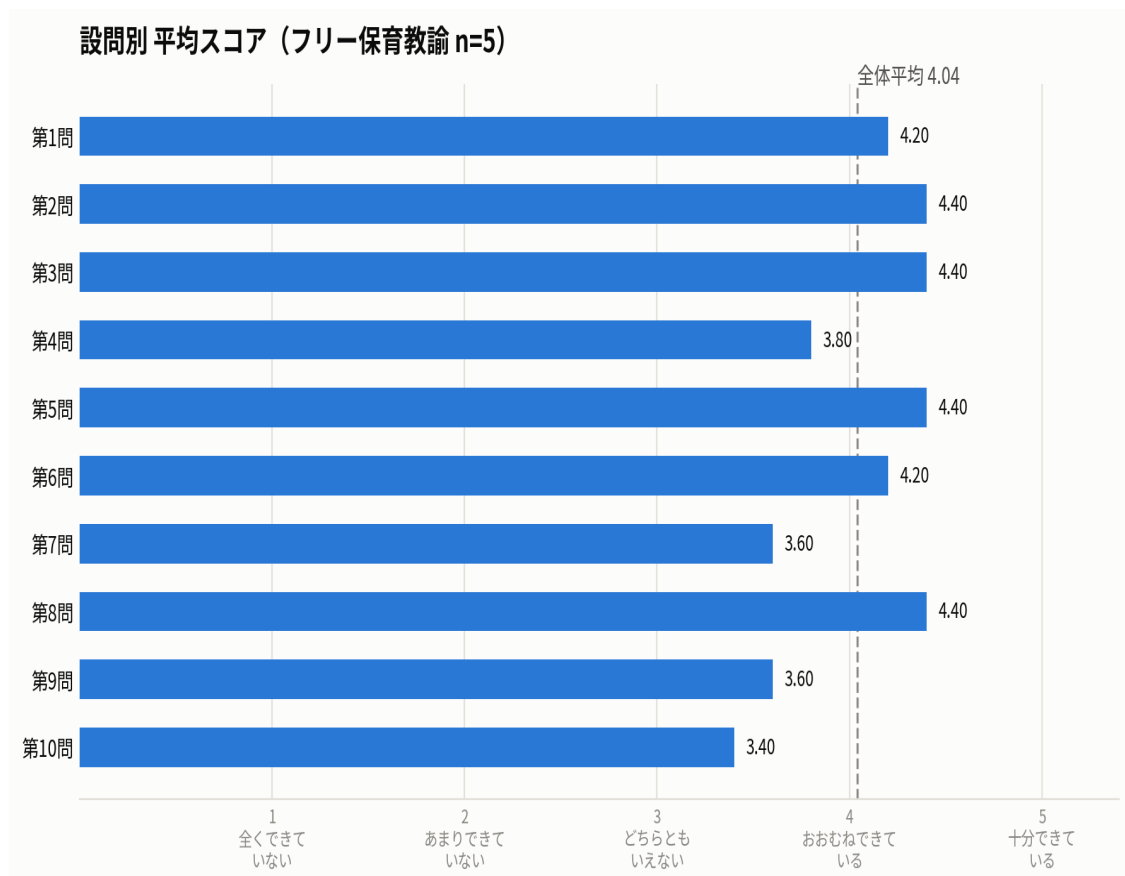


図1：設問別 平均スコア（フリー保育教諭 n=5、5段階評価）

設問別 回答の内訳

平均スコアだけでは見えない回答の広がりを見るため、各設問の回答人数の内訳を図にまとめました。人数がそのまま少人数のグループであるため、比率（％）ではなく実際の人数で示しています。中央の「3. どちらともいえない」は左右へ均等に振り分けています。

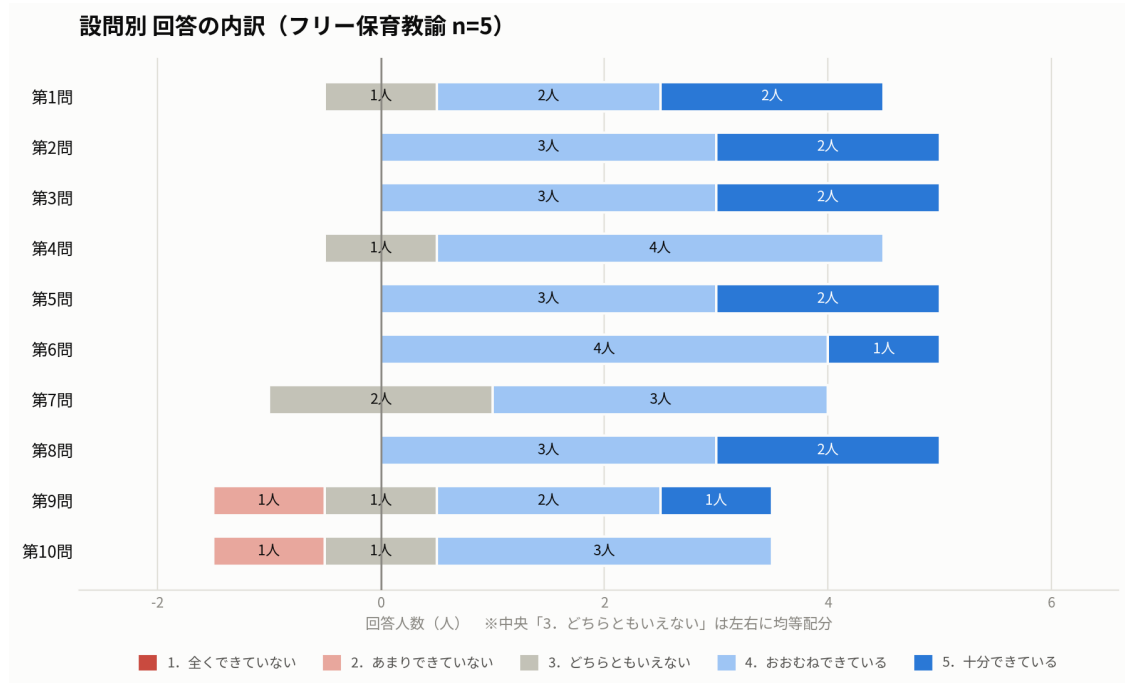


図2：設問別 回答の内訳（人数、n=5）

分析所見

評価の高い項目

設問	内容	平均スコア
第2問	園児に対し、安心感を与える意識を持って対応しているか。	4.40
第3問	必要に応じて、記録・保育補助を行なっているか。	4.40
第5問	担任と連携を取って業務を行なっているか。	4.40
第8問	安全や衛生に配慮しているか。	4.40

担任との連携や子どもへの関わり、安全・衛生管理など、フリー保育教諭としての基本的な役割について高い自己評価が得られています。

評価の低い項目

設問	内容	平均スコア
第10問	園全体を見渡し、必要なサポートをしているか。	3.40
第9問	担任と連携し、保育環境を整える役割を担っているか。（例：活動に合わせてコーナーを整える、子どもが使いやすく、遊びたくなるよう配置する、安全面・衛生面にも気を配る、遊びが広がるような“きっかけ”をちょっと仕込む等・・・）	3.60
第7問	保護者から相談された際に、適切に対応しているか。	3.60
第4問	行事や活動の運営を支援しているか。	3.80

園全体を見渡した動きや保育環境づくり、保護者対応など、担任以外の立場から園全体をサポートする場面に関わる項目が相対的に低めの評価となりました。

本結果から見える今後の課題

回答者数が少ないため断定的な評価は難しいものの、次の点は今後の参考にしたいと考えています。

園全体を見渡した動きや保育環境づくりを、さらに支えていきたい

根拠：「第10問 園全体を見渡し、必要なサポートをしているか」（3.40点）、「第9問 担任と連携した保育環境づくり」（3.60点）は10設問の中で相対的に低めでした。特定のクラスに属さないフリー保育教諭という立場だからこそ難しさを感じる場面があると考えられます。

対応の方向性：担任・フリー保育教諭間での情報共有の仕組みや、園全体を見渡す動きについて具体的な事例を共有する機会を増やし、園全体でサポートしていきます。

総括

全10設問の総合平均は4.04点（5点満点）で、担任の補助や子どもへの関わり、安全・衛生管理といった基本的な役割は高く評価されています。一方で、園全体を見渡した立ち回りや保育環境づくりには伸びしろが見られるため、担任との連携をより深めながら、フリー保育教諭が力を発揮しやすい体制づくりを進めてまいります。

附録：設問一覧と平均スコア

全10設問の内容と平均スコアの一覧です。図1・図2の「第○問」表記に対応しています。

設問	内容	平均スコア
第1問	担任を補助し、柔軟に園全体を支えているか。	4.20
第2問	園児に対し、安心感を与える意識を持って対応しているか。	4.40

設問	内容	平均スコア
第3問	必要に応じて、記録・保育補助を行なっているか。	4.40
第4問	行事や活動の運営を支援しているか。	3.80
第5問	担任と連携を取って業務を行なっているか。	4.40
第6問	子ども一人ひとりを理解し、適切にかかわっているか。	4.20
第7問	保護者から相談された際に、適切に対応しているか。	3.60
第8問	安全や衛生に配慮しているか。	4.40
第9問	担任と連携し、保育環境を整える役割を担っているか。（例：活動に合わせてコーナーを整える、子どもが使いやすく、遊びたくなるよう配置する、安全面・衛生面にも気を配る、遊びが広がるような“きっかけ”をちょっと仕込む等・・・）	3.60
第10問	園全体を見渡し、必要なサポートをしているか。	3.40

自己評価② 専門職員

はじめに

本園では、保育士だけでなく、給食調理・園内環境の整備・子育て支援・保育の補助・園運営の事務など、さまざまな専門職員がそれぞれの立場から子どもたちの毎日を支えています。令和7年度は、これらの専門職員を対象に「自己評価②」を実施し、日々の業務を振り返る機会を設けました。

このページでは、各職種がどのような視点で自己評価に取り組んだかをご紹介します。なお、各職種の対象人数が少人数であるため、個人が特定される可能性のある評価点や回答の集計は掲載せず、振り返りの視点と取り組みの姿勢を文章でご紹介する形としています。



図：専門職員それぞれが支える、子どもたちの毎日

調理員（給食調理）

調理員は、子どもたちの健康と成長を支える給食づくりを担う専門職員です。安全・衛生管理を徹底しながら、栄養バランスやアレルギー対応にも配慮し、毎日の食を通じて子どもたちの心身の発達を支えています。

- 安全で衛生的な給食を提供しているか。
- アレルギー対応を徹底しているか。
- 栄養バランスを考えた献立を実践しているか。
- 調理器具や設備の衛生管理を徹底しているか。

- 子どもの食欲や体調に配慮しているか。
- 食育活動に積極的に参加しているか。
- 調理記録を正確に行なっているか。
- 職員と連携して給食を提供しているか。
- 災害時の非常食対応を理解しているか。
- 安全に配慮して調理作業を行なっているか。
- 調理業務において、自身の担当業務終了後、調理に関する他の業務が残っている場合に、互いに協力して取り組んでいるか。

今後も、安全で衛生的な給食の提供を第一に、子ども一人ひとりの体調や成長に寄り添った食育・献立づくりに努めてまいります。

環境美化員（施設・環境整備）

環境美化員は、園舎や園庭の整備・清掃、設備の点検や修繕など、子どもたちと職員が安心して過ごせる環境を陰から支える専門職員です。安全確認や備品管理を通じて、園全体の運営を支える役割も担っています。

- 園舎や園庭の整備を行なっている。
- 修繕や点検を定期的に行なっている。
- 安全に配慮した環境を整えている。
- 行事準備や片付けを支援している。
- 園児や職員が安心して使える設備を維持している。
- 清掃や美化活動を継続している。
- 廃棄物やリサイクルを適切に処理している。
- 園内外の安全確認をしている。
- 必要な資材や備品を管理している。
- 園全体の環境美化における運営をサポートし、支えている。（園庭の整備、施設や設備の点検・修理、清掃・衛生管理、物品の運搬や管理、緊急時のサポート等）

今後も、子どもたちが安全で快適に過ごせる園内環境の維持に努めるとともに、行事や緊急時の対応など、園全体を支えるサポート体制の充実を図ってまいります。

子育て支援員（子育て支援室）

子育て支援員は、子育て支援室をご利用いただく地域の保護者・子どもたちに寄り添い、相談対応や製作活動、行事参加のサポートなどを行う専門職員です。こども園とも連携しながら、地域の子育て家庭を支えています。

- こども園業務において、主幹教諭と連携を取りながら適切に対応しているか。
- 子育て支援室の利用者の相談に対し、丁寧かつ適切に対応しているか。
- 支援室内で問題が発生した際、園長へ報告・相談し、適切に対応しているか。
- こども園と連動し、毎月の製作活動を計画・実施しているか。

- こども園の行事において、利用者とともに参加し、適切に対応しているか。
- 壁面装飾等について、こども園と同様に工夫し、充実した掲示環境を整えているか。
- 支援室内の美化活動を積極的に行い、衛生面・安全面に配慮し、快適な環境づくりに努めているか。
- 利用者や子どもに安心感を与える関わりを意識して対応しているか。
- 利用者一人ひとりの状況やニーズを理解し、適切に関わっているか。
- 安全および衛生に配慮し、事故防止に努めているか。
- 園全体との連携を意識し、必要に応じて情報共有や支援を行っているか。

今後も、利用者一人ひとりの状況やニーズに丁寧に向き合いながら、こども園と一体となった支援室運営と、安心できる環境づくりに努めてまいります。

保育補助・保育支援員

保育補助・保育支援員は、担任保育士やフリー保育教諭と連携しながら、子どもたちの安全や生活習慣の援助、遊びのサポートなどを行う専門職員です。園内の環境整備や保護者対応など、幅広い場面で保育を支えています。

- 保育士と協力して子どもの安全を守っているか。
- 子どもの健康観察を丁寧に行なっているか。
- 園児の生活習慣の援助をしているか。（例：シャワー、トイレの援助等）
- 遊びや活動をサポートしているか。
- 園内や園庭の環境整備（整理整頓・清掃等）を行い、清潔を保っているか。
- 特別にお願いされた業務報告を正確に行なっているか。
- 保護者や来客に丁寧に対応しているか。
- 担任やフリー保育教諭と連携しているか。
- 子どもの気持ちに寄り添って対応しているか。
- 園の理念を理解し、行動に反映しているか。

今後も、保育士との連携を大切にしながら、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った関わりと、園の理念に沿った丁寧な対応に努めてまいります。

事務員（園運営事務）

事務員は、園運営に必要な事務処理や会計・給与処理、行政対応、個人情報の管理など、園全体の運営基盤を支える専門職員です。保護者や来客への対応、園の広報活動なども担っています。

- 園運営に必要な事務処理を正確に行なっているか。
- 会計や給与処理を正確に行なっているか。
- 行政対応を滞りなく行なっているか。
- 保護者や来客への対応を丁寧に行なっているか。
- 個人情報を適切に管理しているか。
- 職員との連絡調整を行なっているか。

- 必要な書類を期限内に整えているか。
- 園の広報やお知らせ作成に関わっている。（メモリッジ等）
- 電話や窓口対応・来客対応を適切に行なっているか。
- 園の理念に沿った対応を意識しているか。

今後も、正確で丁寧な事務処理と、保護者・関係機関への誠実な対応を通じて、園運営を支えてまいります。

おわりに

本園では、保育士・フリー保育教諭に加え、給食調理・環境整備・子育て支援・保育補助・園運営事務といった専門職員一人ひとりが、それぞれの立場から自己評価に取り組み、日々の業務を振り返っています。それぞれの専門性を生かしながら、園全体で子どもたちの健やかな成長を支えられるよう、今後も継続的な振り返りと改善に取り組んでまいります。

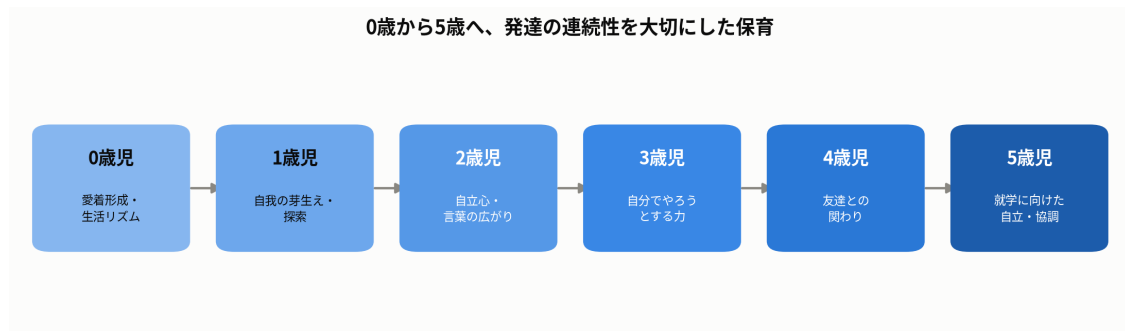
自己評価②・③ 保育士

本園の保育士は、担当する子どもの年齢（自己評価②）と、経験に応じたキャリア段階（自己評価③）という2つの視点から、日々の保育を振り返っています。

このレポートでは、回答者が一定数以上のグループについては集計結果をグラフでご紹介し、少人数のグループについては、個人が特定されることのないよう、振り返りの視点と取り組みの姿勢を文章でご紹介する形としています。

自己評価② 年齢別クラス担任

0歳児から5歳児まで、担任はそれぞれの発達段階に応じた視点を持ちながら、子どもたちの成長を支えています。年齢が上がるにつれて、生活の自立から友達との関わり、そして就学に向けた力へと、保育の視点も少しずつ広がっていきます。



図：0歳から5歳へ、発達の連続性を大切にした保育

0歳児担任

0歳児クラスの担任は、まだ言葉を話せない子どもたち一人ひとりの小さなサインを丁寧に読み取りながら、安心できる愛着関係と生活リズムの基礎を育みます。

- 子どもの健康状態を観察し、変化に気づいているか。
- 適切に、ミルクや離乳食を一人ひとりに合わせて援助しているか。
- 排泄や睡眠のリズムを大切にしているか。
- 安心できる抱っこや関わりを通じて愛着を形成しているか。
- 安全な環境を整え、事故防止に努めているか。
- 泣きや欲求に対して、適切に応答しているか。
- 家庭との連携を図り、子育てを支援しているか。
- 発達に応じて遊びや経験を提供しているか。
- 保育記録を正確に行なっているか。
- 保護者と丁寧にコミュニケーションをとっているか。

今後も、一人ひとりの発達のペースに寄り添いながら、安心と信頼を土台にした保育に努めてまいります。

1歳児担任

1歳児クラスの担任は、歩行や言葉が広がっていく時期の子どもたちの「自分でやってみたい」という

気持ちを大切にしながら、生活習慣の基礎を支えます。

- 一人ひとりの言葉や行動を受け止めているか。
- 歩行や手先の発達に合わせた遊びを取り入れているか。
- 簡単な生活習慣を繰り返し支援しているか。
- 自我の芽生えに寄り添って関わっているか。
- 子どもの安全を守りながら、自由に遊べる環境をつくっているか。
- 保護者に発達や生活の様子を丁寧に伝えたり、保護者の声に丁寧に対応したりしているか。
- 仲間との関わりを大切にしているか。
- 食事や排泄を丁寧に援助しているか。
- 言葉のやりとりを楽しむ場を作っているか。
- 子どもの気持ちを受け止めて安心させているか。

今後も、一人ひとりの気持ちを受け止めながら、探索や挑戦を後押しする関わりに努めてまいります。

2 歳児担任

2 歳児クラスの担任は、自我が育ち始める子どもたちの気持ちに寄り添いながら、友達との関わりや言葉のやりとりを楽しめる環境をつくります。

- 自立心を育てるための援助をしているか。
- 簡単な約束やルールをわかりやすく伝えているか。
- 友達との関わりを見守り、仲立ちをしているか。
- 身の回りのことを、自分でやろうとする気持ちを支援しているか。
- ことばの発達を促す関わりをしているか。
- 安全に配慮しながら挑戦できる環境を用意しているか。
- 保護者と子どもの成長を共有しているか。
- 情緒の安定を図る関わりをしているか。
- 遊びを通じて豊かな表現を引き出しているか。
- 記録や観察を正確に行なっているか。

今後も、子ども一人ひとりの個性を受け止めながら、安心して挑戦できる保育に努めてまいります。

3 歳児担任

3 歳児クラスの担任は、集団での生活が本格的になる子どもたちが、友達と関わりながら社会性を育めるよう、遊びや活動を通じて支援します。

- 園児には、集団のルールをわかりやすく伝えているか。
- 遊びを通じて社会性を育む、保育・教育を行なっているか。
- 友達と協力する経験を設定しているか。
- 自己表現の場を大切にしているか。
- 生活習慣を自分でできるように支援しているか。
- 園児に対し、言葉でのやりとりを広げているか。

- 活動において、意欲的に取り組むよう促しているか。
- 安全に遊べる環境を工夫しているか。
- 保護者と成長を共有し合っているか。
- 発達に応じた教材や遊び、環境構成を工夫しているか。

今後も、子どもたちの意欲を大切にしながら、友達と関わる楽しさを感じられる保育に努めてまいります。

4 歳児担任

4 歳児クラスの担任は、ルールを守って遊ぶ力や表現する力が育つ時期の子どもたちを、主体的な活動を通じて支えます。

- 仲間との協力や思いやりを育むような、教育・保育をしているか。
- 定期的に、主体的・自発的な活動ができるような環境構成の工夫の見直しができているか。
- 「ルールを守って遊ぶ力」を支援しているか。※ルールを守って遊ぶ力とは→「人と関わるための基本的な“社会性”や“自己制御”の力の土台のこと」
- 発表や表現活動の場を大切にしているか。
- 自分の思いを伝え、相手の話を聞く力を育てているか。
- 挑戦する意欲を育てているか。
- 安全を意識した行動を習慣づけているか。
- 行事や活動に、主体的・自発的な活動を行なっているか。
- 保護者と連携して、園児の成長を支えているか。
- 日常生活に必要な習慣を定着させているか。

今後も、子ども自身の挑戦する気持ちを大切にしながら、仲間と協力する経験を積める保育に努めてまいります。

5 歳児担任

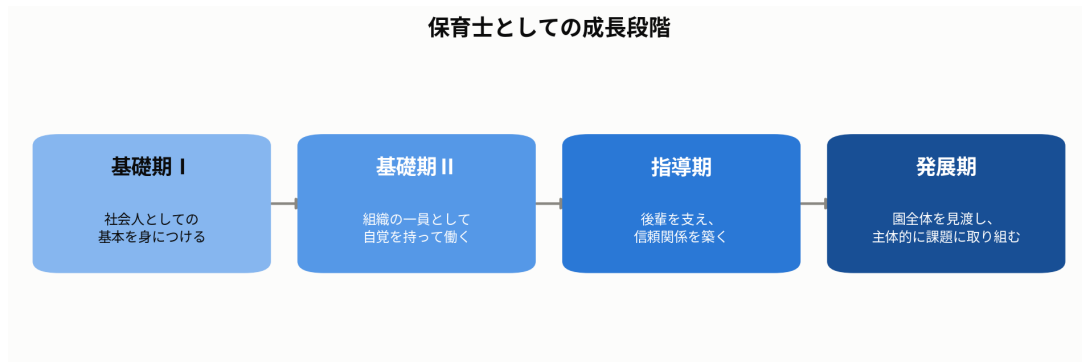
5 歳児クラスの担任は、就学を見据えながら、自立心やリーダーシップ、仲間と協力する力を育む保育を行います。

- 就学を見据え、自立を促しているか。
- 主体的・自発的に活動できる力を育てているか。
- 仲間と協力して課題に取り組む経験を提供しているか。
- 最後までやり遂げる力を育んでいるか。
- 話を聞く力や自分の意見を伝える力を育んでいるか。
- 異年齢や地域との交流を大切にしているか。
- 挑戦心や探究心を尊重しているか。
- 安全意識を持った行動を促しているか。
- 保護者と就学への準備を共有しているか。
- 行事や活動でリーダーシップを発揮できるよう支援しているか。
- 定期的に、主体的・自発的な活動ができるような環境構成の工夫の見直しができているか。

今後も、一人ひとりが自信を持って小学校生活を迎えられるよう、丁寧な支援に努めてまいります。

自己評価③ キャリア段階別

本園では、経験年数や役割に応じて「基礎期Ⅰ・Ⅱ」「指導期」「発展期」の4段階でキャリアを捉え、それぞれの段階に応じた視点で自己評価を行っています。



図：保育士としての成長段階

基礎期Ⅰ

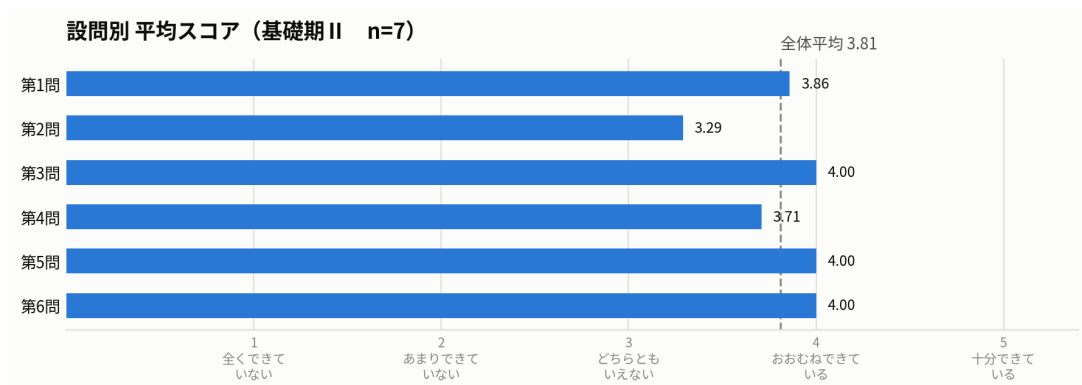
基礎期Ⅰは、社会人・保育士としての第一歩を踏み出す時期です。学生から社会人への意識の切り替えや、組織の一員としての基本的な姿勢を身につけます。

- 学生と社会人の違いを理解し、行動に反映している。
- 自らの意思を相手に伝える姿勢を意識している。
- 社会や組織の一員としての自覚と自己肯定感を持っている。
- 仕事にやりがいを見だし、前向きに取り組んでいる。
- 任された仕事に責任を持ち、やり遂げる経験を積んでいる。
- チームの一員として協力・連携を意識した行動をとっている。

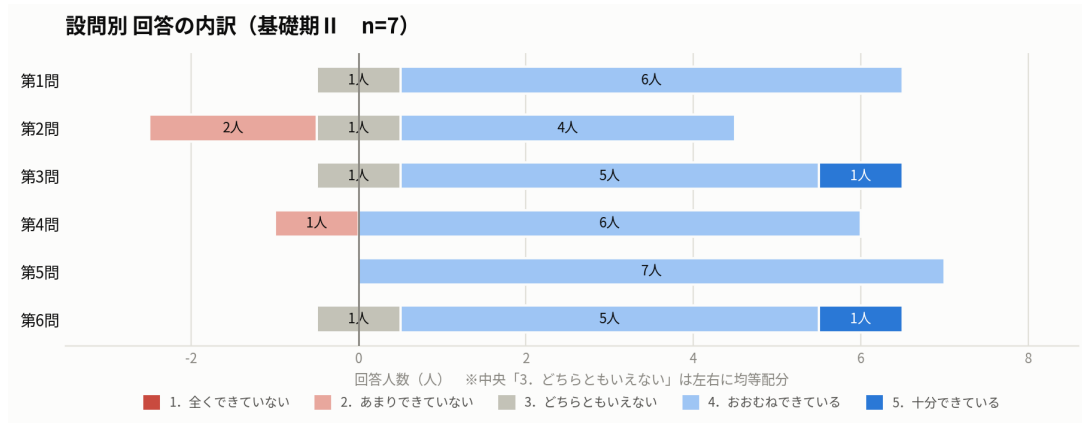
今後も、社会人としての基礎を一つひとつ積み重ね、仕事へのやりがいを感じながら成長できるよう支援してまいります。

基礎期Ⅱ

基礎期Ⅱは、組織の一員としての自覚を持ち、責任感を持って業務に取り組む時期です。



図：設問別 平均スコア（基礎期Ⅱ n=7）



図：設問別 回答の内訳（基礎期Ⅱ n=7、人数）

全 6 設問の平均は 3.81 点で、「任された業務に責任を持ち、やり遂げる姿勢」（5.00 点中 4.00 点）など、責任感に関わる項目で高い評価が見られました。一方「自らの考えや意思を相手に分かりやすく伝えること」（3.29 点）は相対的に低めで、伝える力を伸ばす機会を増やしていきたいと考えています。

指導期

指導期は、後輩の育成や周囲との信頼関係づくりが求められる時期です。誠実な姿勢で仕事に向き合いながら、チームを支える役割を担います。

- 後輩を育てる意識を持ち、適切な助言や関わりを行なっている。
- 自分の言葉で周囲に働きかけ、意欲を引き出している。
- 相手の話に耳を傾け、共感的に関わろうとしている。
- 仲間の強みを活かしながら、協力して業務に取り組んでいる。
- 誠実な姿勢で仕事に臨み、周囲との信頼関係の構築に努めている。
- 困難な場面でも、責任を持って向き合い、行動している。
- 仲間や社会の役に立ちたいという意欲をもって行動している。

今後も、後輩へのよき助言者として、また信頼される存在として活躍できるよう支援してまいります。

発展期

発展期は、園全体を見渡しながらか主体的に課題に取り組み、後進や組織全体に貢献していく時期です。

回答教諭数

16名

(発展期)

設問数

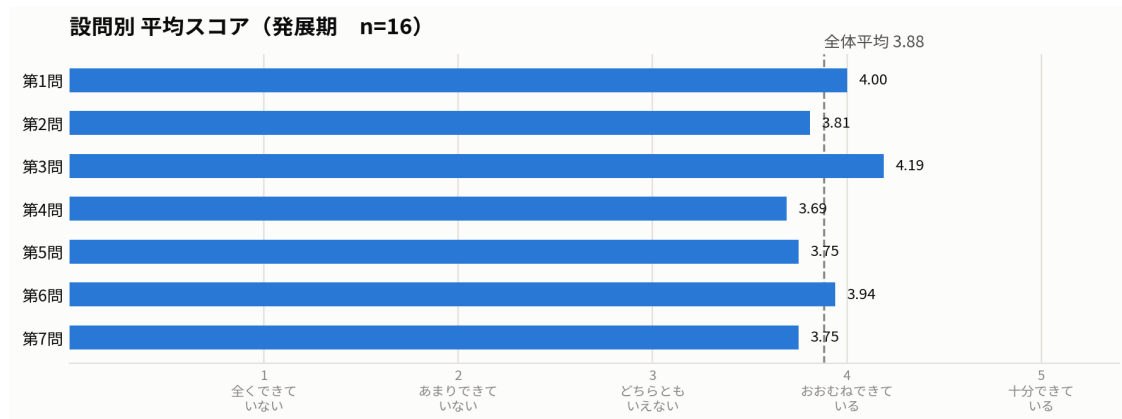
7問

5段階評価

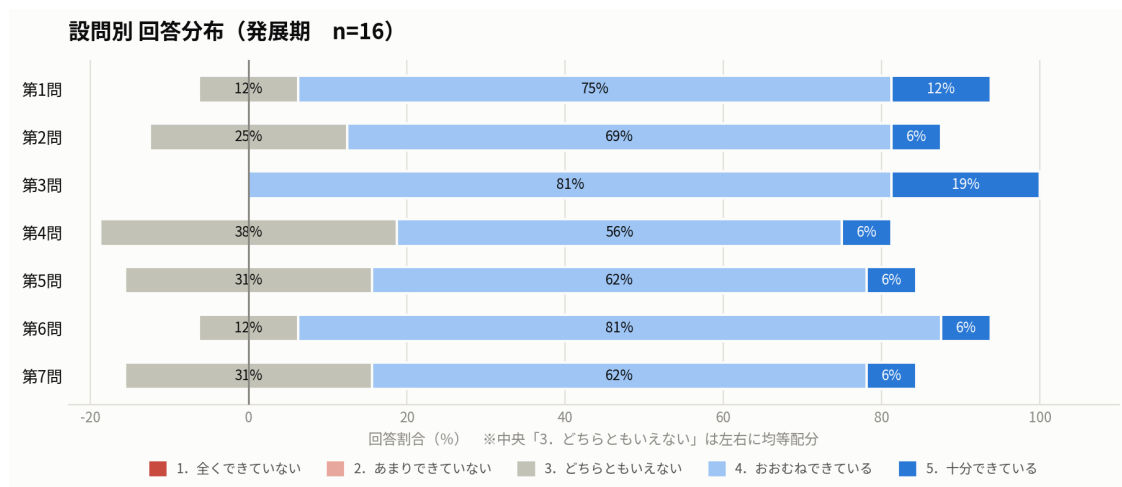
全設問 平均スコア

3.88

／ 5.00 点満点



図：設問別 平均スコア (発展期 n=16)



図：設問別 回答分布 (発展期 n=16、%)

評価の高い項目

設問	内容	平均スコア
第3問	職員の話をよく聴く姿勢をもち、丁寧なコミュニケーションを意識している。	4.19
第1問	園全体の共通目標を理解し、それに共鳴した行動をとっている。	4.00
第6問	園独自のルールや風土を理解し、それを意識して行動している。	3.94

職員の話に耳を傾ける姿勢や、園全体の目標・風土の理解など、組織の一員としての基盤となる項目で高い自己評価が得られています。

評価の低い項目

設問	内容	平均スコア
第4問	保育現場における問題に対し、主体的に考え解決しようとしてい	3.69

設問	内容	平均スコア
	る。	
第7問	多様な視点から物事を捉え、柔軟に対応している。	3.75
第5問	自分自身を振り返り、よりよい関わりを築くための理解を深めている。	3.75

保育現場での主体的な問題解決や、多様な視点からの柔軟な対応など、経験を積み重ねながら磨いていく力に伸びしろが見られました。

保育現場の課題に、主体的に向き合う力をさらに伸ばしたい

根拠：「保育現場における問題に対し、主体的に考え解決しようとしているか」（3.69点）は7設問中もっとも低く、「3. どちらともいえない」の回答も38%と高めでした。

対応の方向性：発展期の職員同士で、実際の保育現場の課題を持ち寄って検討する事例検討会などを通じて、主体的に課題へ向き合う経験を積み重ねられるよう支援していきます。

おわりに

本園の保育士は、担当する子どもの年齢という横のつながりと、経験に応じたキャリア段階という縦のつながりの両面から、日々の保育を振り返っています。それぞれの視点を大切にしながら、園全体で保育の質を高め、子どもたち一人ひとりの健やかな成長を支えられるよう、今後も継続的な振り返りと学び合いに取り組んでまいります。

附録：設問一覧と平均スコア

基礎期Ⅱ（n=7）

設問	内容	平均スコア
第1問	社会人としてのこれまでの経験を活かし、組織の一員として適切な行動をとっている。	3.86
第2問	自らの考えや意思を相手に分かりやすく伝えることを意識している。	3.29
第3問	社会や組織の一員としての自覚を持ち、自身の役割を理解して業務に取り組んでいる。	4.00
第4問	仕事にやりがいを見だし、前向きに取り組んでいる。	3.71
第5問	任された業務に責任を持ち、最後までやり遂げる姿勢で取り組んでいる。	4.00
第6問	チームの一員として、協力・連携を意識した行動をとっている。	4.00

発展期（n=16）

設問	内容	平均スコア
第1問	園全体の共通目標を理解し、それに共鳴した行動をとっている。	4.00
第2問	期待されている役割を理解し、それに沿った行動を実践している。	3.81
第3問	職員の話をよく聴く姿勢をもち、丁寧なコミュニケーションを意識している。	4.19
第4問	保育現場における問題に対し、主体的に考え解決しようとしている。	3.69
第5問	自分自身を振り返り、よりよい関わりを築くための理解を深めている。	3.75
第6問	園独自のルールや風土を理解し、それを意識して行動している。	3.94
第7問	多様な視点から物事を捉え、柔軟に対応している。	3.75

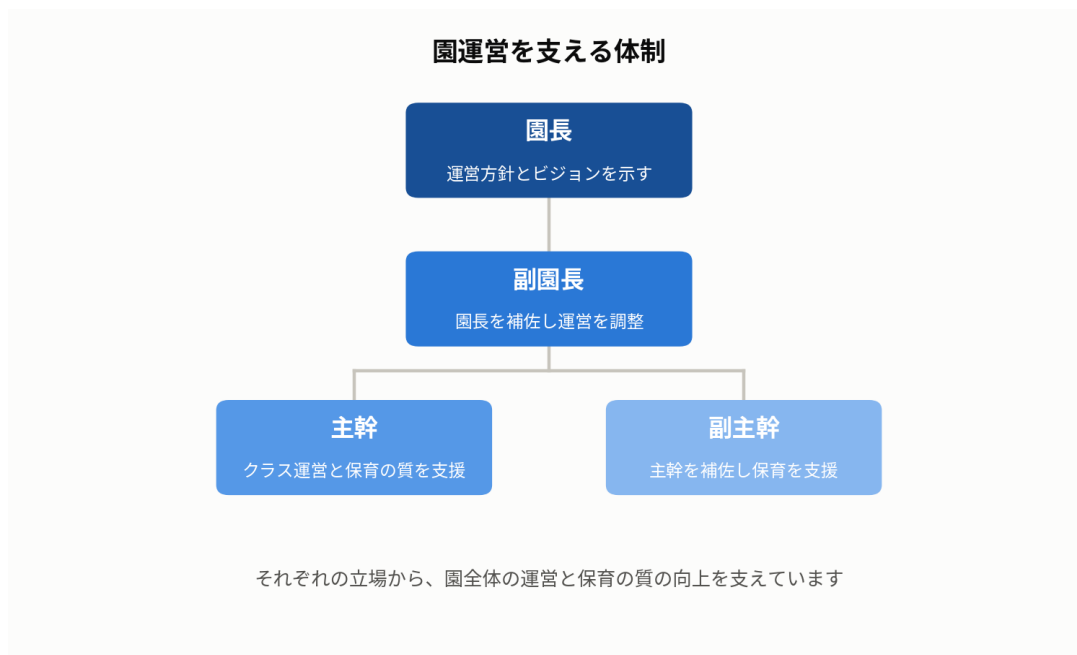
自己評価②・③ 園運営を担う職員

本園では、園長・副園長・主幹・副主幹といった、園の運営を担う職員も、それぞれの役割の視点（自己評価②）と、リーダーとしての経験段階の視点（自己評価③・統括期）から、日々の取り組みを振り返っています。

このレポートでは、各役職の回答者数が少ないため、個人が特定されることのないよう、点数や集計は掲載せず、それぞれの役割で大切にしている視点と取り組みの姿勢を文章でご紹介する形としています。

自己評価② 役職別の取り組み紹介

園長・副園長・主幹・副主幹は、それぞれの立場から園全体の運営を支え、職員が安心して保育にあたる環境づくりに取り組んでいます。



図：園運営を支える体制

園長

園長は、園全体の運営方針を定め、法人・行政・地域との連携や職員の育成、リスクマネジメントなど、園の経営全体に責任を持つ役割を担っています。

- 園の運営方針を明確にし、全職員に共有している。
- 経営計画・予算管理を適切に行っている。
- 行政・地域・法人との連携を円滑にしている。
- 職員の採用・育成・評価を適正に行っている。
- リスクマネジメントを計画的に行っている。（防災・感染症・事故対応）
- 園の広報や地域活動に積極的に関わっている。
- 保護者・地域住民からの意見に耳を傾け改善に繋げている。
- 職員の働きやすい環境を整えている。
- 園の理念・目標の達成度を評価し、次年度計画に反映している。

- 園の教育・保育の質を向上させるリーダーシップを発揮している。

今後も、職員一人ひとりが安心して力を発揮できる園づくりと、地域に信頼される園運営に努めてまいります。

副園長

副園長は、園長を補佐しながら日常的な園運営を円滑に進め、職員と保護者の双方を支える調整役を担っています。

- 園長を補佐し、日常的な園運営を円滑にしている。
- 職員の相談に応じ、調整役を果たしている。
- 事務・行事・保育現場の全体を把握し対応している。
- 保護者や地域からの問い合わせに丁寧に対応している。
- 若手職員や新任職員の育成に関わっている。
- 主幹・副主幹と連携して教育・保育の質を高めている。
- 園の安全・衛生・環境整備を定期的に点検している。
- 財務・労務の補佐業務を適切に行っている。
- 緊急時にリーダーシップをもって指揮できている。
- 園の理念を体現し、模範的な姿勢を示している。

今後も、園長と職員をつなぐ架け橋として、安心できる園運営を支えてまいります。

主幹

主幹は、クラス運営や指導計画の作成を担当と共に進めながら、教育・保育の質を高める役割を担っています。

- クラス運営を観察し、担任を支援しているか。
- 年間行事計画・指導計画の作成に参画しているか。
- 教育・保育の課題を把握し、改善策を提案しているか。
- 若手（全部下）保育士の相談に応じ、育成に貢献しているか。
- 指導案や記録の点検を行い、指導助言をしているか。
- 保護者対応で担任を支援し、安心感を与えているか。
- 行事全体の進行管理や役割分担をしているか。
- 保育環境を定期的に確認しているか。
- 子どもの発達評価を担当と共に検討しているか。
- 園の理念に基づき、模範的な行動を心がけている。

今後も、担任が安心して保育に取り組めるよう、丁寧なサポートに努めてまいります。

副主幹

副主幹は、主幹と連携しながら、若手職員への助言や園内研修を通じて、教育・保育の質の向上を支えています。

- 主幹を補佐し、教育・保育の指導助言を行なっているか。
- 主幹と情報共有を行い、クラス運営のサポートや保育士の育成に関わっているか。
- 指導計画の立案や改善に取り組んでいるか。
- 行事の準備や進行を担い、担任を支援しているか。
- 若手職員（全部下）や補助者への助言を行なっているか。
- 園内研修の実施や補助をしているか。
- 保育の課題を把握し、改善を提案しているか。
- 子どもの育ちを担当と共に観察・評価しているか。
- 安全・衛生管理の徹底を促しているか。
- 園の理念に基づき、模範的な行動を心がけているか。

今後も、主幹と協力しながら、現場に寄り添った支援に努めてまいります。

自己評価③ キャリア段階別（統括期）

本園では、経験年数や役割に応じてキャリアの段階を捉えており、園運営を担う職員は、園全体を見渡す視点を持つ「統括期」として自己評価を行っています。

統括期

統括期は、広い視野と深い理解を持ちながら、リーダーとしてビジョンを描き、地域や社会との連携を大切にする時期です。

- 人や社会、仕事に対する広い視野と深い理解をもっている。
- 受容的な姿勢と傾聴力を活かし、円滑なコミュニケーションを行なっている。
- リーダーとしての見識をもち、ビジョンを持って園運営に臨んでいる。
- 地域との連携に積極的で、社会貢献の姿勢を大切にしている。
- 問題に対して、前向きに捉え、解決に向けた行動を起こしている。
- 自身のキャリア形成に関心を持ち、自己研鑽を継続している。
- マネジメントに正解はないと理解し、柔軟な対応を心がけている。

今後も、広い視野とリーダーシップを持ち、園全体の運営や地域との連携に貢献できるよう努めてまいります。

おわりに

園長・副園長・主幹・副主幹は、それぞれの役割の視点と、リーダーとしての経験段階の視点の両面から、日々の園運営を振り返っています。それぞれの立場を大切にしながら、職員が安心して働き、子どもたち一人ひとりが健やかに育つ園づくりに、今後も継続的に取り組んでまいります。

令和 7 年度 浜田ハピネス認定こども園 自己評価

作成日：2026 年 8 月 18 日

自己評価の目的

本園では、保育所保育指針にもとづき、園全体の保育・運営の質を継続的に高めていくことを目的として、毎年度、全職員による自己評価を実施しています。子どもたち一人ひとりが安心して健やかに育つ環境を維持・向上させるためには、日々の実践を振り返り、成果と課題を職員間で共有しながら、次の取り組みへとつなげていくことが欠かせないと考えています。

この自己評価は、園全体で行う共通の振り返り（自己評価①）に加え、フリー保育教諭・専門職員・保育士・園運営を担う職員など、それぞれの役割や経験段階に応じた振り返り（自己評価②・③）を組み合わせ実施しました。本レポートは、これら一連の自己評価から見えてきた園全体としての成果と今後の課題を取りまとめ、保護者・地域の皆さまにご報告するものです。

自己評価の実施概要

令和 7 年度は、2026 年 3 月 26 日から 6 月 27 日にかけて、Google フォームを用いた 5 段階評価（1. 全くできていない ～ 5. 十分できている）による自己評価を、下記のとおり実施しました。

自己評価	対象	回答数
自己評価①（全職員共通）	全職員	31 名
自己評価②（フリー保育教諭用）	フリー保育教諭	5 名
自己評価②（専門職員用）	調理員・環境美化員・子育て支援員・保育補助／保育支援員・事務員	各職種 1～4 名
自己評価②（年齢別クラス担任用）	0 歳児～5 歳児クラス担任	各クラス 1～3 名
自己評価③（キャリア段階別用）	基礎期Ⅰ・Ⅱ、指導期、発展期の保育士	計 29 名
自己評価②・③（園運営を担う職員用）	園長・副園長・主幹・副主幹、統括期	各役職 1～3 名

各役職・年齢クラス・専門職種など、回答者数が少人数となるグループについては、個人が特定されることのないよう、点数や集計を掲載せず、取り組みの視点や姿勢を文章でご紹介する形としています。

園全体の自己評価から見えてきた成果・強み

31 名の全職員による自己評価（自己評価①）では、全 20 設問の総合平均は 3.93 点（5 点満点）となり、安定した自己評価結果が得られました。役割別・年齢別・キャリア段階別の自己評価とあわせて振り返ると、園全体として次のような成果・強みが見えてきました。

子どもの安全・人権・衛生管理の徹底

全職員の自己評価では、「子どもの安全を最優先にしているか」（4.32 点）、「子どもの人権とプライバシーの尊重」（4.29 点）、「衛生管理の徹底」（4.19 点）が 20 設問中もっとも高い評価となりました。保育の土台となる基本業務について、職種を問わず高い意識で取り組めていることがうかがえます。

それぞれの専門性を活かした丁寧な取り組み

調理員・環境美化員・子育て支援員・保育補助／保育支援員・事務員といった専門職員も、安全・衛生管理や利用者対応、園全体の運営基盤づくりなど、それぞれの専門性を活かしながら、園の教育・保育を陰から支えています。

経験段階に応じた責任感の発揮

保育士のキャリア段階別の自己評価では、基礎期Ⅱ（3.81 点）・発展期（3.88 点）とも、「任された業務に責任を持ち、やり遂げる姿勢」や「職員の話をよく聴く姿勢」など、責任感やコミュニケーションに関わる項目で高い評価が見られ、経験を重ねるごとに組織の一員としての自覚が育まれている様子がうかがえます。

園運営を担う職員の明確なビジョンと横の連携

園長・副園長・主幹・副主幹は、運営方針の共有やリスクマネジメント、担任と連携した保育の質向上など、それぞれの立場から園運営を支えています。フリー保育教諭や主幹・副主幹といった、特定のクラスに属さず園全体を横断的に支える職員の存在も、園全体の連携を支える力となっています。

今後の課題・重点的に取り組みたいこと

一方で、平均点の順位だけでは見えにくい回答の広がりまで踏まえて振り返ると、園全体として次の点に重点的に取り組む必要があると考えています。

研修で得た学びを、日々の実践にどうつなげるか

根拠：全職員の自己評価では、「会議や研修で得た知識を実践に活かしているか」が全 20 問中もっとも低い平均 3.45 点で、「3. どちらともいえない」の回答が 41.9%と全設問中もっとも高くなりました。

今後の取り組み：研修後に「今日の学びを保育にどう活かすか」を共有する振り返りの時間やミニミーティングを設け、研修と日々の実践をつなぐ仕組みづくりを進めます。

ICT・教材の活用をさらに広げる

根拠：「ICT や教材を活用し、保育や事務の効率化を図っているか」は平均 3.67 点で、担当業務によって活用の機会に差がある実態がうかがえました。

今後の取り組み：全職員が使いやすい ICT ツール・教材の整備と操作研修を行い、担当業務にかかわらず活用の機会を広げていきます。

業務日誌・記録の書き方を園内で揃える

根拠：「業務日誌や記録を正確・迅速に記入しているか」は平均 3.74 点で、回答にも比較的広がりが見られ、担当業務によって記録の経験に差があることがうかがえました。

今後の取り組み：記録項目・書式を園内で統一し、記入時間の確保や OJT を通じて、記録業務の標準化を図ります。

園全体を見渡す立場からのサポートを、さらに強化したい

根拠：フリー保育教諭の自己評価では、「園全体を見渡し、必要なサポートをしているか」（3.40 点）が 10 設問中もっとも低く、特定のクラスに属さない立場だからこそその難しさがうかがえました。

今後の取り組み：担任・フリー保育教諭間での情報共有の仕組みや、園全体を見渡す動きについて具体的な事例を共有する機会を増やし、園全体でサポートしていきます。

保育現場の課題に、主体的に向き合う力をさらに伸ばしたい

根拠：発展期の保育士の自己評価では、「保育現場における問題に対し、主体的に考え解決しようとしているか」（3.69 点）が 7 設問中もっとも低く、「3. どちらともいえない」の回答も 38%と高めでした。

今後の取り組み：発展期の職員同士で、実際の保育現場の課題を持ち寄って検討する事例検討会などを通じて、主体的に課題へ向き合う経験を積み重ねられるよう支援していきます。

今後の方針

全職員 総合平均	フリー保育教諭 総合平均	基礎期Ⅱ 総合平均	発展期 総合平均
3.93	4.04	3.81	3.88
自己評価①（20問・n=31）	自己評価②（10問・n=5）	自己評価③（6問・n=7）	自己評価③（7問・n=16）

今回の自己評価を通じて、子どもの安全・人権・衛生管理といった保育の土台となる部分は高い水準で実践できている一方、研修内容の実践への還元、ICT・記録業務の標準化、園全体を見渡す動き、保育現場の課題への主体的な向き合い方には、まだ伸びしろがあることが分かりました。

本園では、今回の自己評価結果を踏まえ、上記の重点課題を次年度の園内研修や業務改善のテーマに位置づけ、職種・役割・経験段階を越えて職員全体で共有しながら、一つひとつ着実に取り組んでまいります。今後も、自己評価を通じた継続的な振り返りと改善のサイクルを大切に、子どもたち一人ひとりが安心して健やかに育つことのできる園づくりに努めてまいります。